

学生のストレイトな代弁にどう応じるか……

－当HPのカウンター数、4万をクリアー

当HPのカウンター数が、予想日通り今夕には4万をクリアしてました（開設：h13/12/20 h15/5/10、カウンター数5千：h15/5/10、1万：h16/1/8、1万5千：h16/8/16、2万：h17/3/4、2万5千：h17/9/29、3万：h 18/3/18、3万5千：h 18/7/18）。

当HPのカウンターは、他のサーバーからのアクセスがあるまでは加算されないものを使っていますので、この数字は実質的にみな様の訪問いただいた数字だけに、感謝の気持ちで一杯です。

ご訪問いただき、本当にありがとうございます。

携帯電話主流の学生たちからの要望もあり、昨年10月に（iモード）用「雑学」HPも増設しました。

最近のいじめ関係のHP記事を目にしてくれた学生たちから、「人は何のために生きるのでしょうか？死ぬために生きるのなら生きる意味などあるのでしょうか？なぜ、人は自ら死を選ぶ人を責めるのでしょうか？生きる意味を失ったからこそ、選んだ道なのに…。たとえそれが、現実から逃げるためだったとしても…。」などのストレイトな問いかけのメールも届きます。

学生たちが代弁しているように、子どもたちも、こうした「生きるとは？」というような基本的なことを、その年齢なりに考え、答えを得るヒントを求め、大人と話し合いたいのではないかなあと、つくづく感じています。

それだけに学生たちからのストレイトな問いかけには、「出来るだけ簡潔、明瞭、明快に」、その年齢なりに解って貰えるかなあとと思う返信に心懸けています。

コミュニケーションとは「相手の土俵に上がることから始まる」という、こうした思索の機会を与えてくださっている学生たちに感謝しています。

ある哲学者は、「人生は生きるに値するものという前提ほど大切なものはない。そう思わなければ生きていけない。」と云っています。

そう思うようになるためにも、当HP開設の趣旨にあるように、「『人間』、『社会』についての基本的事柄を次世代と共に考え、また、次世代へメッセージを発信できれば…」と、自らの検証をしつつ、これからも記事更新に努めたいと思っています。

これからもご訪問いただいた折は、色々ヒント、アドバイスの程、よろしくお願ひします。

早速ですが、記事中のような問いかけには係わり合い続けることが大事かと思っていますので、みなさんはどう応えるか、ヒントをお聞かせいただければ幸いです。

（2006年11月29日記）